

事業名	高等教育機関活用事業
-----	------------

総事業費	593 千円
------	-------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	計画的で効率的な行政運営の推進
	基本事業名	広域的な取り組みの推進

② 実施 (Do)

事業の意図			設置へ向けた課題を解決する ①流出を防ぐ。(若年層の人口を確保する) ②種子島での教育の機会を与える。
事業の実績 と 成果	取組内容	看護短期大学については、これまでの検討及び調査結果を精査し、庁内検討会を重ね設置可否について結論を出した（設置は厳しい）。大学連携では東海大学の海洋学部やオリンピアンの高野進教授ら招聘し事業を実施した。定員割れが深刻な種子高については、課題の把握のため種子高校長や種子中学校長らと対応策について協議した。	
	成 果	H27年度から検討を重ねてきている看護短期大学の設置可否については、課題（実習先の確保、地区単位での取り組み、設置場所）の解決が困難であることから厳しい旨判断したところである。これについては、医師会長にも説明したところ、本地区における看護師不足が深刻であるとの指摘があったため、県保健所などと協議し、今後医師会や医療機関、市を含む関係機関と対策について検討していくため意見交換会を保健所主導で開催していくことが決定されている。なお、種子高の定員割れが深刻な状態であり、存続も危ぶまれる声も出ていることから、関係機関等で構成される種子高魅力化支援連携協議会を設置し、オール西之表市で取り組んでいく計画である。	

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	大学連携はこれ前同様の取組みを継続していくが、種子高魅力化事業の取組みにも必要不可欠であるため、経済観光課事業とも密に連携していく必要がある。また、R2年度は種子高魅力化支援連携協議会を設置し、種子高の定員確保の取組みを進めていくこととなるが、人口減少地域の高校再編の県教委の考えについて確認していく必要がある。高校魅力化事業については、本市はオール西之表市で取り組んでいくことから、関係機関及び団体等と深く連携していくことが重要と考える。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	・看護系短大設置については課題克服が現状では困難な状況である。一方で、地元生徒の島外高校への進学が顕著になりつつあることから、その対策を早急に講じる必要性が出てきた。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	これまで検討を重ねてきた看護短期大学は課題解決が見込めず設置は困難と判断したところである。若者定着化を進めていくため、引き続き大学連携など模索していく。新たな取り組みとしては、定員割れが深刻な状態である種子高の魅力化推進事業の展開であり、今後、市内関係機関及び団体と連携しオール西之表で対策を検討していく。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明